

ポスター報告 7

呉 允熙 筑波大学

岡 典子 筑波大学

#報告題目 韓国における自立生活理念をめぐる論争—当事者・当事者主義に関する主張を中心に—

#報告キーワード 当事者 当事者主義 韓国障害者団体総連網

#報告要旨

(目的)

国際社会において、障害者が「当事者」としての立場と権利を強く意識するようになるのは、世界障害者連盟(Disabled People's International: DPI)が組織される 1980 年代初頭である。韓国でも 1986 年に韓国 DPI が設立されたが、当事者や当事者主義への関心が高まるのは、1990 年代末に、自立生活理念が日本から直接導入されて次第であった。自立生活概念において、アメリカは障害者の選択権を強調する意味で消費者中心主義を、日本では自立生活センター運営において障害者参加を強調する意味で当事者主義を強調していた(キム・キョンヘ,2004)。日本からの自立生活理念や IL センター導入の影響を強く受けた韓国において「当事者」や「当事者主義」概念は、それまで社会参加を阻まれてきた障害者には新鮮な概念であった。自立生活理念の導入と共に、当事者主義の概念が急速に拡大され、それに関する論争は理念導入期から現在まで続いている。特に、その論争は、2003 年から大きくなり、障害者団体によって、その主張は異なる。そこで、本論文では、自立生活理念と共に議論の対象となった当事者主義を中心に、韓国の障害者団体による主張はいかなるものであったのかを検討する。そのため、韓国における代表的な 2 つの障害者団体の連合組織である韓国障害者団体総連網(障総連)の主張の内容を検討する。

(結果)

1. 韓国障総と障総連について

韓国にある障害者団体は、大多数が韓国障総と障総連の 2 つの組織に所属している。障総連(1996 年結成)が自らを当事者組織と自負したのに対し、韓国障総(1998 年結成)は

政治的な力をもつ人物が多数かかわっていた障害友権益問題研究所の主導で結成されたという経緯をもつ。2000年代初頭まで、韓国における自立生活運動は韓国障総によって牽引されたが、2002年、障総連に韓国 DPI が加入すると、両組織は対立的な関係となる。障総連は、韓国障総が韓国障害者再活協会など専門家主導の団体であることを批判し、韓国障総は、障総連が偏狭な当事者主義であって、利権獲得を目的とする利益団体にとどまっていると批判した。2. 「当事者」はだれを意味するのか

当事者の概念については、当事者主義との関係の中で当事者を定義することが多かった。それは、障害者が当事者であることの生物学的アイデンティティへの基本的な合意と当事者主義理念を持った障害者を当事者と見る観点である。障総連は、当事者を障害者の個人ではなく障害者集団と見ていた。つまり、障害者個人が当事者であるのは当然であるが、当事者主義者は当事者の選択と評価の主体としての集団であり、集団の利害のため行動するものであると述べた（イ・イクソプ,2005）。韓国障総は、当事者を単純に医療的で生物学的な視覚から見ることは、障害問題を社会環境との関係から見る観点では説得力がないと指摘し、障害をもっていること自体がいつも善または特権と評価されるのはいけないと述べていた（イ・ムンヒ,2005）。

3. 「当事者主義」を巡る考え方

障総連の韓国 DPI は、当事者主義を、障害者の政治的な連帯を通して障害者を抑圧する社会環境とサービス提供体系の不平等な権力関係を批判・牽制することによって、障害者の権利、統合と独立、自助と自己結成を達成しようとする当事者主導の権利運動であると述べた（イ・イクソプ,2004）。しかし、同じ当事者主義を志向する障害者団体であっても、障害者の自己決定権が無視される「偽当事者主義」に反対すると主張した（キム・デソン,2003）。

（まとめ）

自立生活理念の導入期の当事者と当事者主義を巡った論争は、その理念が韓国の社会に根を下ろす過程であると考えられる。当事者主義を巡る論争は、既存の障害系が持った現状とも強い繋がりを持ちながら、発展して来たと考えられる。

（引用文献）

キム・デソン,2003,「障害者当事者主義運動の参加と連帯精神、進歩評論,pp.170-187.

キム・キョンヘ,2004,『障害者自立生活センター運営基盤助成方案』、ソウル市政開発研究院,p.12.

イ・ムンヒ,2005,「誰が障害者当事者であるのか」Ablenews(20051206)

イ・イクソプ,2005,「当事者主義と障害者人権運動：背景と哲学」障害者当事者主義大討論会,韓国障害者団体総連合会

イ・ソクヒョン,2005,「障害者当事者主義を言う」障害者当事者主義大討論会,韓国障害者

団体総連合会